

湿地と健全な生態系、生物多様性

生命を育む湿地

世界湿地の日
2026年2月2日



湿地は生物多様性の宝庫で、世界の動植物種の40%が湿地に生息・生育しています。

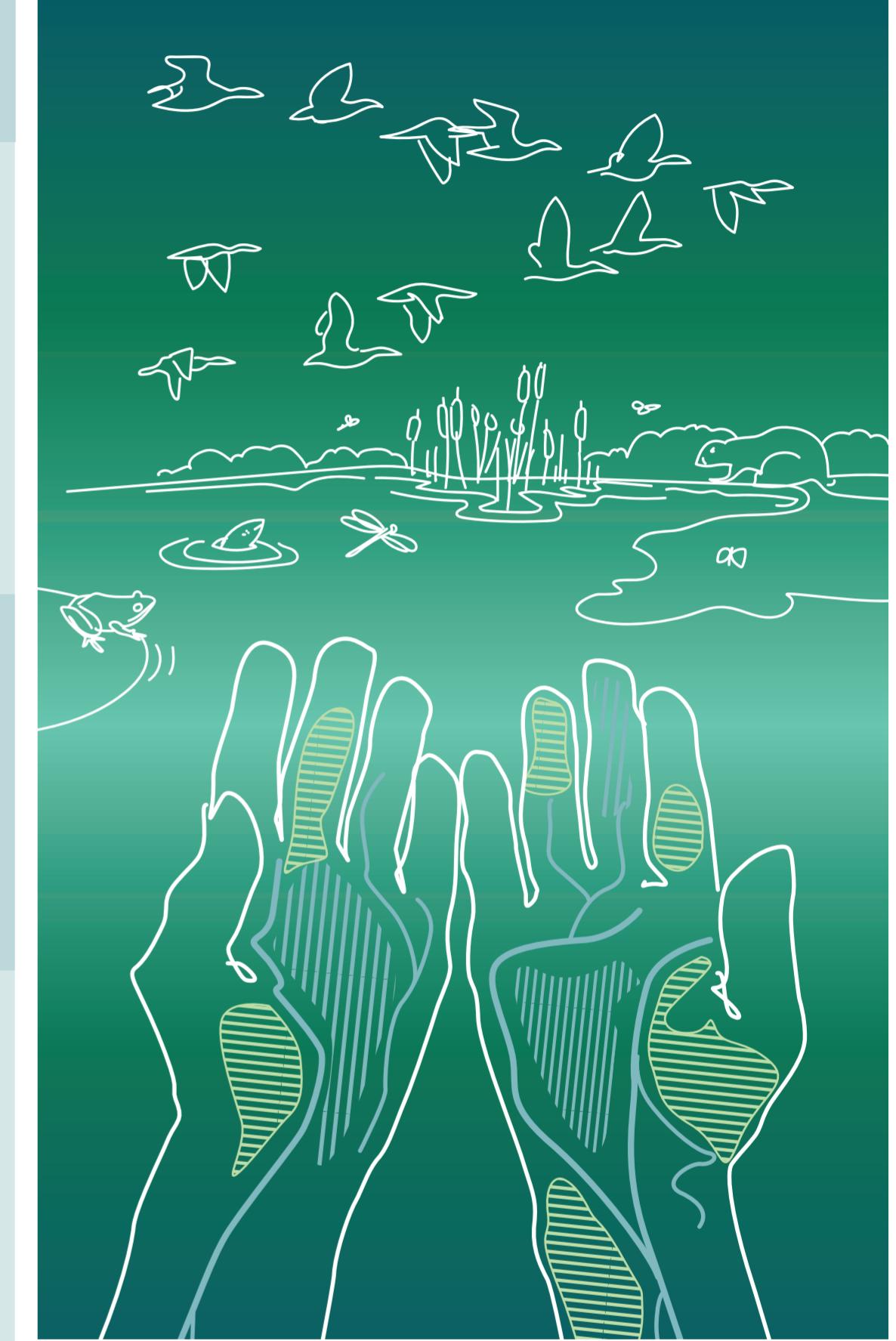
水鳥や魚など、湿地をよりどころとする種は深刻な減少傾向にあり、その25%が絶滅の危機に瀕しています。1970年以降、内陸の湿地に生息する種の個体群の81%、沿岸と海洋に生息する種の36%が減少しています。日本を含む東アジア・オーストラリア地域フライウェイは、250以上の個体群からなる5,000万羽もの渡り鳥を支えています。しかし、その経路上にある湿地は脅かされており、現在、36種の渡り鳥が絶滅の危機にあります。

2022年12月に「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、世界の生態系の保全と回復における転機となりました。この枠組には、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるための4つのゴールと23のターゲットが含まれており、湿地を含む生物多様性と生態系サービスにとって重要な地域に焦点が当てられています。

昆明・モントリオール生物多様性枠組は、ラムサール条約の戦略計画と整合しており、内陸水域、沿岸域、海洋域の生態系の保全と回復に向けて次のような野心的な目標を掲げています。

- 劣化した生態系の少なくとも30%を効果的な回復下におく。
- 保護地域とOECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)を通じて、陸域、内陸水域、沿岸域および海洋の少なくとも30%を保全する。
- 自然が人々にもたらす恵みを回復、維持、強化する。

1971年2月2日に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」が採択されたことを記念し、条約事務局は、1996年に「世界湿地の日」を定めました。湿地の保全とワיזユース(賢明な利用)をさらに促進するため、2021年8月、国連総会は、この日を国連の定める「世界湿地の日」と決定しました。



湿地の価値を評価し、
保全、再生し、資金を投じる。
もはや迷う余地はありません。
地球上の生命の土台を守るために、
なくてはならないことです。



WorldWetlandsDay.org - #CelebratingWetlands - #WetlandsandCulturalHeritage

日本語版作成:環境省自然環境局野生生物課

世界湿地概況2025より

